

平成 15 年 5 月 22 日

関係者各位

(財)消費者教育支援センター
理事長 宇野 政雄

第 7 回 消費者教育実践表彰入賞結果

学校の教育実践を対象に実施した「第 7 回消費者教育実践表彰」の審査結果を下記のとおり決定いたしました。

記

<最優秀賞> 1 件 (賞状および賞金 20 万円、記念品)

「私たちを取りまく環境と家庭 - コンシューマーシチズンを育成するための消費者教育 - 」
神奈川県立相模大野高等学校教諭 関根田 欣子
同校情報インストラクター 篠崎正信

<優秀実践賞> 4 件 (賞状および賞金 5 万円、記念品)

「賢い消費者をめざして～生活の中から課題を見つけ、主体的に解決しようとする力を育てる消費者教育の工夫～」
栃木県足利地区中学校教育研究会 技術・家庭科部会

「ケイタイマニュアルを作成しよりよい情報社会を実現しよう! ～人々を危険から守り、利用者の役に立とう!～」

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校教諭 川口信雄
千葉大学講師 鈴木敏恵

「かしこい消費者になろう」

宮崎県田野町立七野小学校教諭 江里隆

「生活への実践化をめざす消費者教育」

徳島県上勝町立上勝小学校(実践時)教諭 藤本勇二

<優良賞> 9 件 (賞状および記念品)

滋賀県近江八幡市立岡山小学校、岐阜県本巣郡根尾村立根尾小学校、香川県高松市立築地小学校、神戸市中学校教育研究会 技術・家庭部、奈良英代(藤女子高等学校)、伊藤あさ・三浦文・黄金由希・佐伯直美(広島市立五日市観音西小学校)、佐藤典子(啓明学園中高等学校)、荒井きよみ(東京都立江戸川高等学校)、高橋史郎・大浦重喜(東京都練馬区立光が丘第三小学校)

以上

入賞実践の概要と講評

(当センター機関誌「消費者教育研究 - NICE ニュースレター」No.68 にて掲載)

最優秀賞には、相模大野高等学校の関根先生の実践が選ばれました。

家庭科の学習段階と消費者教育の視点を踏まえた実践で、生徒の主体性や学習意欲を高める学習展開が特に評価されました。

具体的には、情報インストラクターの支援のもと、家庭科で学習した欠陥住宅などの生活環境問題について、生徒が発展的に学内外で調査活動を行い、情報機器を活用したプレゼンテーションやゲームを制作して発表・評価しあう活動が行われました。

優秀実践賞には、4件が選ばれました。

足利地区中学校教育研究会の技術・家庭科部会では、広告紙の制作・評価、自己評価用紙などのワークシート作りの工夫が行われ、消費生活センターの相談員と協力した授業づくりを行っていました。また、横浜国立大学附属横浜中学校の川口先生の実践は、現代的課題である携帯電話の問題を通してメディアリテラシー（情報活用能力）の育成を図るもので、TT や企業とのパートナーシップによるユニークな試み、成果物の作成・配布といった社会参加的な活動が評価されました。

七野小学校の江里先生の実践は、金銭教育の取り組みの中で、子どもに即した「賢い消費者」概念の構成や他教科・総合的な学習の時間における学習活動の位置づけが明確に図られており、指導法の工夫も見られました。上勝小学校の藤本先生の実践では、上勝の地域振興、棚田や桜もちづくりの実践を背景に、地域から知恵を発掘しつつ自らの消費生活を考え直す学習活動に工夫が見られました。

選考委員会 委員一覧

委員長	望月哲太郎	財団法人文教協会会長
委員	青島 明生	弁護士
	柿沼 利昭	青森大学教授
	小関 禮子	東京都東村山市立秋津東小学校校長
	高部 和子	常盤短期大学附属幼稚園園長
	天井 勝海	東京都立桐ヶ丘高等学校校長
	横山 和子	埼玉県坂戸市立若宮中学校教頭
	本橋 由紀	毎日新聞生活家庭部記者

(所属は平成14年度当時のもの)